

高千穂中学校の現状

現在の高千穂中学校の校舎は、特別教室棟が昭和39年に建築されてから59年が経過、普通教室棟が昭和53年に建築されてから45年が経過し、建物や設備の老朽化等による修繕箇所も増加しており、教育内容の変化、充実への対応が困難になってきている。また、少子化の進展により、生徒数の減少や今後も更なる人口減少や少子化が予測されていることを踏まえると、学校規模の適正化についての検討も必要になっている。さらには、現在の学校用地は、急傾斜地警戒区域（急傾斜地特別警戒区域）内にあることから、学校施設の早急な移転、建て替えが必要とされている。

(1) 学校の沿革（略歴）

昭和22（1947）年4月	宮崎県知事の認可を受け高千穂中学校を設置
昭和22（1947）年5月	創立 本校は高千穂小学校内に開校
昭和23（1948）年10月	校舎第1期工事落成式 高千穂小学校併設教場より1年生移転
昭和28（1953）年6月	運動場拡張工事完了
昭和39（1964）年4月	校舎改築上段特別教室一棟6教室竣工 （理科第1・第2、美術、音楽、被服、技術教室）
昭和50（1975）年12月	プール建設完工式
昭和52（1977）年2月	体育館竣工
昭和53（1978）年6月	新校舎落成 移転 （普通教室棟、管理・特別教室棟）
昭和53（1978）年9月	新給食室竣工
平成12（2000）年9月	空調設置（校長室、事務室）
平成15（2003）年8月	空調設置（職員室）
平成15（2003）年10月	下水道工事完了（全トイレ水洗化）
平成26（2014）年6月	特別教室棟屋根補修工事
平成26（2014）年6月	普通教室棟、管理・特別教室棟屋根防水補修工事
平成29（2017）年9月	屋内運動場屋根改修工事
平成31（2019）年3月	トイレ洋式化改修工事
平成31（2019）年4月	普通教室空調機設置
令和5（2023）年6月	普通教室棟屋根防水工事

(2) 学校の概要

① 所在地	高千穂町大字三田井 939-6		
② 面積			
校地	建物敷地保有面積	17,505 m ²	
	運動場用地面積	11,900 m ²	
	その他面積	4,909 m ²	
	総面積	34,314 m ²	
校舎	普通教室棟	1,280 m ²	
	特別教室棟	1,848 m ²	
	屋内運動場 (ステージ含む)	968 m ²	

(3) 学校施設の老朽化状況

現在の高千穂中学校は、特別教室棟が建築後59年経過、普通教室棟が建築後45年を経過し、この間、雨漏り等による老朽化対策や施設更新等の改修工事を実施してきている。

施設の健全度、劣化状況を把握し評価するため、学校施設台帳、耐震診断結果を参考とし、さらに屋上・外壁等の実態を把握するため、目視による現地調査を行っている。

「屋根・屋上」、「外壁」は、項目毎に劣化状況の確認と劣化具合の写真により評価を行うとともに「内部仕上」、「電気設備」、「機械設備」についても経過年数による評価を行い、それらを基に総合的に施設の健全度として点数化している。

【評価指標】

目視による評価

(屋根・屋上、外壁)

	評価	基準
良好	A	おおむね良好
	B	部分的に劣化 (安全上・機能上：問題なし)
	C	広範囲に劣化 (安全上・機能上：不具合発生の兆し)
劣化	D	早急に対応する必要がある

経過年数による評価

(内部仕上、電気設備、機械設備)

	評価	基準
良好	A	20年未満
	B	20～40年
	C	40年以上
劣化	D	経過年数に関わらず 著しい劣化事象がある

【健全度の算定】

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。部位のコスト配分を下表のように定め、健全度を100点満点で算定します。

- 健全度 総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷60（コスト配分合計）

表：部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

表：部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋根・屋上	5.1
外壁	17.2
内部仕上	22.4
電気設備	8.0
機械設備	7.3
合計	60.0

【劣化状況評価】

建物名	建築年度	築年数	屋上	外壁	内部	電気	機械	健全度
普通教室棟（南校舎）	1977	43	C	B	C	C	D	46
普通教室棟（中校舎）	1978	42	D	C	C	C	D	34
普通教室棟（中校舎）	1984	38	—	B	B	B	—	75
管理・特別教室棟	1978	42	A	C	C	C	D	41
特別教室棟	1963	57	B	C	C	C	D	39
特別教室棟（技術室）	1963	57	B	C	C	C	—	43
特別教室棟（家庭科室）	1985	35	B	C	B	B	B	65
給食室	1978	42	C	A	C	C	D	54
屋内運動場	1976	44	A	C	C	C	D	41

令和3年高千穂町学校施設長寿命化計画より抜粋

(4) 学校施設の耐震診断状況

昭和56年以前の建築基準法（旧基準）に基づき建築された建物について、国が定めた耐震基準での耐震性能の診断と診断結果の公表が必要なことから、高千穂中学校については、平成18年度に耐震診断を実施し公表したところであるが、いずれの建物も文部科学省が学校に求めている耐震強度の数値を満たしており、耐震補強工事は不要となっている。

【耐震診断】

建物名	構造	建築年度	規模(m ²)	階数	診断年度	I s 値	補強
特別教室棟	S	1963	684.00	1	2006	0.98 2.73	不要
屋内運動場	S+RC	1976	968.00	2	2006	0.74/1.94 1.23/1.10	不要
普通教室棟（南校舎）	S	1977	470.00	1	2006	1.77 0.92	不要
普通教室棟（中校舎）	RC	1978	810.00	2	2006	0.79 1.30	不要
管理・特別教室棟	RC	1978	877.00	2	2006	1.21 1.53	不要

- * **構造**：Sとは鉄骨造、RCとは、鉄筋コンクリート造を表しています。
- * **I s 値**：I s 値（構造耐震指標）とは耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標で、I s 値0.6以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省では学校の耐震強度はI s 値0.7以上を保つよう求めています。

国土交通省	倒壊又は崩壊する危険性	文部科学省	倒壊又は崩壊する危険性
I s 値<0.3	高い	I s 値<0.3	高い
0.3≤I s 値<0.6	ある	0.3≤I s 値<0.7	ある
I s 値≥0.6	低い	I s 値≥0.7	低い